

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—おやこの塗り直し—

NO. 97



毎日、日中は小さい子達の支援で何組もの親子と場を共にし、午後になると、もう少し大きくなった子ども達と放デイで場を共にし、夕方になると、ご家族が迎えに来られて ひとつ話。あんずの支援は、いつも親子ワンセットで行っています。

最近、『親子の絆』とか『親子の関係』について語るのにとても気を使うようになりました。育児の負担や就労の問題が前面に出てくるようになり、“親子の時間の大切さ”を口にすることがデリケートになっているからです。人それぞれ感じ方は違いますので、何を肯定否定するわけではありませんが、今月は様々なご意見があること承知で書きますね。

トイレにも行けない。私の姿が見えなくなると不安になり、いつもくっついてくる。幼稚園に入って保育所に入って、離れても大丈夫になったはずなのに、なぜだか最近また、ずっとくっついてくる。園でもまた先生との一対一で過ごす時間が多くなっているみたいで心配。家は何も変わっていないけれど…といった話を伺うことは少なくありません。

小中学生のご家庭からは、最近、帰ってくると、何だかわからないけどイライラしていることが多くて。構うと怒るし、構わないのは不満そうだし。「みんなそうだよ」とは言われるけど、どうしたらいいの？ と、放デイにお迎えに来たときに話される方もいます。

そんな時、子どもの成長している姿を見ながらお話することは…

たくさん子ども達を見ている中で、節目みたいなものがあるんです。小さい子の場合、“できること”“わかること”が少しずつ増えてきた頃にそんな時期があります。それまでは、あてがわれたものに乗って、そのまま応じていた姿でした。そして、少しずつまわりが見えるようになり、好き嫌いがはっきりして、頑固になってきたり、躊躇するようになり、不安定さが出てきます。でも、それをまだ言葉では伝えられないので、いちばん安心できるお母さんやお父さんにしがみついていきます。HOMEの何ともいえない安心感を、改めて何度も塗り直しているのだと思います。親の負担感も再燃し、できなくなっている姿に不安を感じるかもしれませんが、それは、次に飛び立つために、二歩三歩、後ろに下がって勢いをつけている時間なのです。対応の仕方考えながら、一緒に見守っていきましょう。

年齢が大きくなるにつれて、過ごす世界も広がり、本人なりに見聞も大きく広がっていきます。まわりから求められることも多くなってきて、自分でこうしたいと思うことと、実際にできることのギャップも感じるようになってきます。思春期に近づけば、よくわからない身体の変化に追いつかない気持ちもでてきます。そんな時、付かず離れず、安心安定できる空間を作ってあげることもひとつの方法です。「ここはHOMEだから大丈夫」と言葉にはしなくても、我が家の“いつも”を作っておく。そうこうしているうちに、学校や放デイのような場所で、外の人（社会）と解決していけることも多いです。家族との関係を再度塗り直して、飛び立つ準備をしているのです。

あんなこともこんなこともある中で、親子って？ HOMEって？ 飛び立つって？ を一緒に考え歩いていく場が あんず でありたいな、と思っています。(R6. 6) K

